

大会名 Competition	第27回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO, M-105	Year Month Day Time 2014 年 5 月 3 日 17 : 00
場所 Place	能代市総合体育館



チームA		チームB
藤枝明誠	( 22 1st 19 24 2nd 19 19 3rd 28 22 4th 31 OT )	能代工
87 ●		97 ○

主審:Referee 加川 真 宮城  
副審:Umpire 小野寺 浩 秋田  
堀内 昌浩 宮城  
テーブル・オフィシャル:Table officials  
能代松陽男子

No,	pi-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No,	pi-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	角野 亮 伍	CAP	37	1	13	8	0	4	×	長谷川 暢	CAP	27	2	8	5	4
5	×	白井 観 月		6	1	1	1	3	5	×	荒木 直		4	0	2	0	5
6	×	宮越 康 慎		25	0	11	3	3	6	×	中村 碧 杜		10	0	5	0	4
7	/	園田 健 太		0	0	0	0	1	7		渡邊 竜 也		-	-	-	-	0
8	×	片山 和 哉		13	0	5	3	3	8		猪狩 涉		-	-	-	-	0
9	×	川原 一 仁		4	0	2	0	3	9	×	小室 望 海		4	0	2	0	2
10	/	斉藤 将 平		2	0	1	0	0	10	/	斉藤 大 輔		16	0	5	6	3
11	/	野呂 拓 真		0	0	0	0	0	11	/	金久保 翔		17	1	5	4	2
12	/	富永 涼 介		0	0	0	0	1	12	×	幸崎 竜 馬		17	1	6	2	0
13		石井 竜 馬		-	-	-	-	0	13		植村 太 一		-	-	-	-	0
14		阿部 駿 太		-	-	-	-	0	14	/	盛 實 海 翔		2	0	1	0	0
15	/	林 大 真		0	0	0	0	2	15		柴田 一 真		-	-	-	-	0
16		竹藤 裕		-	-	-	-	0	16	/	大高 祐 哉		0	0	0	0	0
17		富田 一 成		-	-	-	-	0	17		長谷川 翔		-	-	-	-	0
18	/	坂下 郁 弥		0	0	0	0	5	18	/	藤原 健 人		0	0	0	0	1
コーチ		三上 淳							コーチ		佐藤 信 長						
アコーチ		久保原 勇							アコーチ		柴田 直 宏						
合計				87	2	33	15	21	合計				97	4	34	17	21

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* イントシュート 2P:2P\* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Q, 藤枝明誠ハーフコートマンツーマン, 能代工オールコートマンツーマンでスタートする。

立ち上がり, 両チームとも厳しいディフェンスを攻めきれず, ターンオーバーやシュートミスが続く。藤枝明誠#6宮越がドライブからのレイアップで先制すると, 能代工#9小室もすかさずドライブで入れ返す。藤枝明誠は#4角野が中心となりジャンプシュートやインターセプトからのレイアップを決めると, 能代工も#4長谷川が1対1からのジャンプシュートやドライブからのレイアップを決め, 互いに譲らない展開となる。22-19の藤枝明誠3点リードで1Qを終了。

2Q, 藤枝明誠は#5白井と#4角野のジャンプシュート, #6宮越と#8片山のゴール下で得点を重ね, 3分で12点差とリードを広げる。能代工は1回目のタイムアウトを取り, ハーフコートの1-2-2プレスから3-2ゾーンディフェンスに切り替え積極的に仕掛けながらミスを誘う。能代工#11金久保のゴール下や#6中村, #12幸崎がインターセプトやリバウンドから速攻を決め, 最大15点差を追い上げ, 46-38の藤枝明誠8点リードで2Qを終了。

3Q, 藤枝明誠は#4角野が3Pやドライブからのレイアップを決めるが, 能代工のゾーンディフェンスを攻めきれずターンオーバーが続く。能代工#12幸崎, #11金久保が3Pを決め6点差になったところで藤枝明誠が1回目のタイムアウトを取る。その後も流れをつかめない藤枝明誠は残り2分3点差となったところで2回目のタイムアウトを取る。その後も能代工#5荒木のコーナーからのジャンプシュートや#10斉藤が速攻からのゴール下で得点を重ね, 65-66の能代工が1点逆転して3Qを終了。

4Q, 藤枝明誠は#6宮越のゴール下や#4角野のフリースロー, リバウンドから#8片山の速攻が決まり, 6点ビハインドとなったところで能代工が1回目のタイムアウトを取る。能代工は#11金久保のゴール下や#12幸崎のインターセプトからの速攻で追い上げ, 一進一退の展開となる。残り4分から能代工は#4長谷川や#12幸崎が得点を重ね, 87-97の10点差で能代工が勝利した。